

# FUKUOKA ASIA FILM FESTIVAL 2025 福岡アジアフィルムフェスティバル

福岡アジアフィルムフェスティバルは、アジア各国の文化を映画を通して紹介する事を目的にスタートし、(2016年改称後)今年で28年、また改称して10年目を迎えます。本年は、福岡アジア美術館・学芸課さまとタイアップし、秋の企画展『ベトナム、記憶の風景』のタイミングに合わせてベトナムの作品を上映、トークイベントを実施するほか、ジャパンプレミアのフィリピン作品や在スイスの日本人監督作品枠や独自の視点が光るドキュメンタリー作品、昨年に引き続きワン・トン監督の作品など幅広いラインナップで実施いたします。



## ヒアリング

日本初上映

権力者との法廷闘争に巻き込まれた聴覚障害者の少年は、両親の支援を受けながら、話すことはできても自分のために声を上げられない法廷手話通訳者と出会う。

フィリピンの小さな漁村に住むルーカスは耳が聞こえない。ある日少年は、村の有力者である教区のメホール神父から性的虐待を受ける。事実を知った両親のモダンナとダンテは、多くの障害にぶつかりながらも神父を訴えることを決意する。正義を求める過程で、彼らは手話通訳者のマヤと出会う。彼女もまた、強者の横暴を目の当たりにするひとりであった。無関心が蔓延するこの社会で、話すことのできない者を黙殺し、語る者の魂を打ち砕く力に、彼らはどう対抗するのか。

監督: ローレンス・ファハルド  
2024年/フィリピン/100分  
©A LAWRENCE FAJARDO FILM All rights reserved.



## 九州大学彦山生物学実験施設

英彦山の豊かな自然に囲まれた九州大学の生物学施設を舞台に、生きものと自然と歴史を4年にわたって記録した珠玉のドキュメンタリー映画!

彦山生物学実験施設は福岡県添田町にある英彦山(1199m)の中腹にある九州大学農学部の附属施設。昭和11年(1936)の開設以来、英彦山に生息する昆虫を中心とした生物の研究に寄与し多くの成果があげられてきた。英彦山では新種が発見されることも珍しくなく採集の拠点になる施設の存在は重要かつ不可欠なのだ。4年にわたって撮影を重ねた本作では、施設の利用の様子や施設の開設に尽力した英彦山神宮宮司 高千穂宣廣男爵(1865~1950)の人物像を追った。

監督: 児玉公広/2025年/日本/116分  
©イワプロ 球フィルムス All rights reserved.



## 珈琲の流れ 薫る時-Coffee's Flow, Fragrant Moment-

ミャンマーの奥地でコーヒーを作る、ある日本人のドキュメンタリー。

珈琲は身体を巡る力の水。その流れが確かに薫るのは大切な人が戻って来た時。

石谷崇史(いしたに たかし) 音楽ドキュメンタリー作家(沖縄県石垣市出身) ishitanitakashi.com/mingalar

学生時代、アジア地域の音楽について、執筆活動を開始。後にラジオ・テレビ番組のディレクターとして、世界の音楽、語学(アラビア語・中国語・ロシア語…)、文化ドキュメンタリー(中国・韓国・インドネシア・タイ…)等、様々な番組を制作。最近のものでは、NHK BS-8Kシリーズ「中国・天涯の地」がある。独自作品には、ミャンマー音楽ドキュメンタリー「チョーミン楽団が行く!」等がある。現在、ドイツ・ベルリン在住。

石谷崇史氏によるトークあり

監督: 石谷崇史/2025年/ミャンマー・ドイツ/62分  
©南洋音工作室 All rights reserved.



## 〈ベトナム特集〉

河の女

痛烈な批判性と傑出した映像美! 80年代、世界各国の映画祭で上映された、最高のベトナム映画。

ベトナム戦争中、ベトナム中部の古都フエを流れる川に数多くの舟が浮かんでいた。その舟には南ベトナム政府軍を相手とする娘婦たちが住んでいた。ニューエもそんな女の一人だが、ある日政府軍に追われた解放戦線のリーダー、リエンがニューエの舟に逃げ込んでくる。傷ついたりエンを助けたニューエは彼を舟の中に匿うのだった。

監督: ダン・ニャット・ミン 1987年/ベトナム/94分  
提供: 福岡市総合図書館



## 赤い柿

第33回金馬獎最優秀美術設計賞受賞、最優秀監督賞・最優秀主演女優賞ノミネート

台湾ニューシネマの傑物ワン・トン監督の自伝的名作「赤い柿」ユーモアあふれる祖母を中心に、時代に翻弄される大家族を描いたヒューマンドラマ。

1949年。国共内戦に敗れた国民党軍とともに、王将軍一家も台湾への移動の準備を始める。やがて新天地台湾へやって来た一家は郊外の広い日本家屋に暮らし始めるが、10人の子沢山一家の暮らし向きは父親の退役とともに次第に苦しくなっていく。そんな中、家族の生活を支えていたのが、孫たちに囲まれたおばあちゃんの知恵とユーモアだった。

監督: ワン・トン(王童) 1995年/台湾/168分  
©Taiwan Film and Audiovisual Institute. All rights reserved.



## ベトナムを懐(おも)う

1995年、冬のニューヨーク。故郷へのおもいを持ち続ける祖父と故郷を知らない孫。二人の衝突は、やがて一家の歴史の扉を開く...

1995年冬のニューヨーク、雪の中を老人ホームから抜け出してきたトウーは、息子ゲンと孫娘タムのアパートに転がり込むが、ボーイフレンドの誕生日を祝おうとしていたタムは祖父の乱入に困惑を隠せない。ベトナムの思い出を語るトウーとアメリカ育ちのタムの溝は深まるばかりで、ついにタムの怒りが爆発、トウーは家を飛び出す。そこへ帰ってきたゲンは故郷への哀しい思いを語り始めた。なぜゲンは祖國を捨てたのか。タムはベトナム移民である自分の知られざるルーツと家族の歴史を知ることになる。

監督: グエン・クワン・ユン 2017年/ベトナム/88分 配給: ムービー・アクト・プロジェクト  
©HKFilm All rights reserved.



## 山歌(サンカ)

かつて日本の山々に実在した放浪民・サンカ。財産も戸籍も持たず、ときに蔑まれ、ときに自然の恵みを一身にあびた。混乱の今、これまでに問い、これからを作るわたしたちの物語。

かつて日本の山々に実在した放浪民・山窩(サンカ)を題材に、孤独な少年とサンカの一家の交流を描く。高度経済成長期の1965年。東京で暮らす中学生の則夫は、受験勉強のため田舎の祖母の家へやって来る。ある日彼は、山から山へと旅を続けるサンカの家族と出会う。

監督: 笹谷遼平 2022年/日本/77分 配給: 六字映画機構  
©六字映画機構 All rights reserved.



## 〈在スイス監督作品特集〉

Storming -外は強風- 日本初上映

チャンドラー国際映画祭, Chandler International Film Festival, USA・最優秀新人賞 シアトル映画制作者賞, Seattle Filmmaker Awards, USA・女性に関する最優秀映画賞など受賞多数。

現在スイスと日本で活躍中の加戸監督による、注目の初監督作品!

避難した山小屋で、3人の若者が遭遇する。外で嵐が吹き荒れる中、3人は過去の悪夢を打ち明けて想像しなかった絆が芽生える。それぞれが社会の重圧に押し潰されそうになっていた。とくに女性に差別に満ちた環境からの脱出を図っていた。しかし、3人の間の平穏は長く続かなかった。

監督: 加戸寛子 2024年/スイス・日本/16分 ©Nobuko kato All rights reserved.



## Fuku Nashi -ふくなし-

国際コンペティションでの最優秀賞を含む4つの賞を受賞 祖母とふたり向き合い7年間撮影を続けた一。ミックスアイデンティティと世代間関係のテーマを扱った作品。

数年の不在の後、「ゆきえ」は自分のアイデンティティを求めて、おばあちゃんの家に戻る。この場所で、孤独な2人の魂は出会うが、大きな溝が2人を隔てる。ざわめきに似たテレビの雑音と廃墟の庭の木々の狭間で、だんだんと緩やかに少しずつ会話が和み、二人の距離が縮まっていく。

監督: 山東寿理 2022年/スイス・日本/44分  
©JULI SANDO All rights reserved.



## 余燼(よじん)

金馬獎2024主演男優賞、助演男優賞、美術賞、衣裳デザイン&メイク賞、オリジナル音楽賞

2006年、台北市内で起きた刺殺事件をきっかけに、過去と現代が交差し、台湾現代史の悲劇と共に壮大な復讐計画が浮かび上がる。

『ひとつの太陽』『瀑布』のチョン・モンホン監督が、白色テロを題材に、国家、歴史が絡む壮大なサスペンスに挑んだ問題作。チャン・チェン、モー・ズーイー(「親愛なる君へ」)は、本作で金馬獎主演・助演男優賞にノミネートされた。『ひとつの太陽』『瀑布』にも出演したティファニー・シュー、リウ・グァンティン、チェン・イーウェンのほか、名優チン・シーチェ、マー・ジーシアン(「セデック・バレ」)や、「イケメン友達」(第20回大阪アジア映画祭)で金馬獎主演男優賞を受賞したチャン・ジーヨンが脇を固めた。

監督: チョン・モンホン(鍾孟宏) 2024年/台湾/162分  
協力: 台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター/Cinema Drifters/大福字幕: 吉川龍生、佐高春音 ©本地風光電影 All rights reserved.



## 山歌(サンカ)

かつて日本の山々に実在した放浪民・サンカ。財産も戸籍も持たず、ときに蔑まれ、ときに自然の恵みを一身にあびた。混乱の今、これまでに問い、これからを作るわたしたちの物語。

かつて日本の山々に実在した放浪民・山窩(サンカ)を題材に、孤独な少年とサンカの一家の交流を描く。高度経済成長期の1965年。東京で暮らす中学生の則夫は、受験勉強のため田舎の祖母の家へやって来る。ある日彼は、山から山へと旅を続けるサンカの家族と出会う。

監督: 笹谷遼平 2022年/日本/77分 配給: 六字映画機構  
©六字映画機構 All rights reserved.



## FAFF インフォメーション

今年もやります! / FAFFマルシェ

毎年お馴染みとなりました、オイスカ研修生手作りのグッズや、インドネシアをはじめとした各国の個性豊かな雑貨品のほか、ミャンマー支援のためのチャリティーグッズの販売を行います。

食べ物から雑貨までいろいろ!



## 映画を観て一杯いかが?企画

福岡アジアフィルムフェスティバルのチケットの半券をお持ち頂くと「素敵」な特典がございます。

ご協力店についてはこちらをチェック!



## とってもおトク! 「FAFFパスポート」

本年度も、当企画のフリーパス券を実施いたします。11上映/全作品ご鑑賞いただけるとってもお得なフリーパスです。全作品コンプリートいただいたお客さまには、当企画でお馴染みのオイスカ名物「手作りジャム」をプレゼント!もちろんちょい飲みチケットとしてもご活用いただけます。

FAFFフリーパス券 6,000円(税込)